

感情むき出しの添乗 集中するイジメを直ちに中止すること

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

9月、東海労の特定の組合員への異常な営業科長による添乗が、連続して繰り返されました。多い組合員は1ヶ月に4回も5回も連続しているのです。もはやこれは、業務上必要な「指導」「添乗」などとはとても言えません。東海労に対する集中したイジメ そのものです。

予備の運転士が車掌として乗務した場合を含めて、車掌業務に対して集中して繰り返されている「添乗」はミスを誘発させようとしている、と断言できます。さらに、20にも及ばんばかりの「指摘」を感情むき出しにして矢継ぎ早に行い、「乗務報告書に記載しておくように」とダメ押しをしてくる有様です。これは、時間管理どころか列車監視をも、故意に妨害する状態を作っているのです。

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

他労組の皆さんにも被害が及んでいます。東海労組合員だけに添乗するのは無理で、その前後に国労、ユニオン組合員にも乗り込んできています。

なぜこのような異常な「添乗」が繰り返されているのでしょうか。小川科長の、科長としての点数稼ぎだけではありません。大事故につながりかねない、として「ミス」を理由にした社員管理、締め付けを全社的に行っているのです。特に新幹線はその中心の職場です。

反原発の声の広がりの中、何としても リニア の芽を摘むわけにはいかないのです。管理者への至上命令として締め付けを強化し「無事故」を継続しなければならない社会状況なのです。でも、事故は起きます。原因が不思議な、9日の保守用車の「脱輪」とごまかした脱線事故が典型です。

締め付けで事故やミスは防止できません。私たち社員や、関連会社の社員がゆとりをもって仕事ができるこそ、安全が確保できると断言できます。

私たち東海労は、直ちにイジメ添乗を中止することを要求します